

## 会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営等に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	第4回高松市創造都市推進懇談会（U40／第6期）	
開催日時	令和5年7月11日(火) 午後6時30分～午後8時	
開催場所	高松市役所11階 110会議室	
議 題	1 意見交換 2 その他	
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開	
上記理由		
出席委員	多田会長、湯川副会長、林委員、二川委員、伊澤委員、 三木委員、棟近委員、宮武委員、松井委員、西森委員	
事務局	産業振興課 松本課長、平井補佐、伊藤主事	
市参加者	産業振興課	岡本係長、齊藤主事
	市場管理課	坂口主任技師、亀井主任主事、 岩井主任技師、綾田主事
	文化財課（菊池寛記念館）	森田館長、宇都宮係長
	スポーツ振興課	東係長、石川主事
関係者	香川ファイブアローズ 興行運営部	織野 昭芳 氏
傍聴者	1人	
担当課及び 連絡先	産業振興課 創造産業係 839-2411	

### 審議経過及び審議結果

#### 1 開会

（事務局から開会挨拶）

#### 2 意見交換

##### 【会長】

前回に引き続き、意見交換を行っていききたい。今年度、最後の会議になるので、最後に、各グループで、どのような話をしたのか、全体で共有する時間を持ちたい。

**(各グループで意見交換)**

**【会長】**

グループごとに、どのような意見交換をしたのか、発表してほしい。

**【市場管理課グループ】**

市場の活性化事業として、うみまち商店街を一層盛り上げるために、何が必要かという話を進めてきた。U40委員から意見をいただく中で、市場の外から見て、にぎわいが見えやすいようにしてはどうかという話が出ていた。

7月29日(土)～30日(日)に市場の周辺で、「夏の冷祭」という、漁港のお祭りが行われるため、課内で話し合い、その日に併せて、うみまち商店街でもイベントを行うことになった。

うみまち商店街の内部通路に、広場のような場所があるので、そこを活用して、うみまち商店街の店舗が出店し、夏祭りのような夜のイベントを行う。屋台・提灯をつけて、夏をイメージしたようなイベントを開催する。ぜひ、他の委員や市の職員にも参加してほしい。

また、イベントが終わった後の周知が課題なので、来場した際には、周知・発信をお願いしたい。

**【産業振興課グループ】**

伝統的ものづくり支援や特産品振興について意見交換を進めてきた。この事業では、なり手不足をどう解決するか、市民を含む多くの人の認知度上昇が課題になっている。それらを解決する手段の一つとして、「オープンファクトリー」という、工場見学のような取組を、観光やものづくりなどの地域の面で実施するというようなイベントを高松市でも行えるのではないかと。U40委員から、ものづくりに興味がある人や従事したい人がイベントに来たとしても、自分たちがその産業に従事したときに、生活していけるのかが見えないと従事してくれず、いわゆるモデルみたいなものがないと引き込めないという話があった。

例えば、それが創業支援という枠組みでつなげたり、工場見学をする映像を撮っておいて、それをアーカイブにしておいたら、観光で来る方、高松に来たい方がその映像を見て来てくれたり、小中学生がそれを見て、ものづくりに興味を持ってくれるようなやり方があるので、色々な人からも見てもらえるようにできるのではないかと話になった。

行政だけで考えていては、浮かばない考えをU40委員から頂いて、刺激となった。方向性の結論までは出ていないが、来年度以降に、新しい取組ができるのであれば、報告したい。

#### 【文化財課グループ】

今回の会議で、新しい意見が4つ出た。

1つ目は、缶バッジを作る。菊池寛記念館の観覧者数を、特に若い方を増やしたいという課題があり、菊池寛記念館でしか手に入らないものを作成したら良いのではという話になった。色々な意見が出る中で、缶バッジが比較的低予算で作成でき、商品もさることながらその作る過程も、一つの催しとして、子どもたちに受け入れてもらいやすいのではという意見が出た。

2つ目は、学習支援の場とする。これは、菊池寛の懐の広さだったり、文学館の本来の役割として、文章を書く楽しみや、表現の楽しさを子どもたちにも味わってもらいたいという考えが根底にある。加えて、近所に香川大学があるので、学生をボランティアスタッフとして声をかけ、菊池寛記念館で学習支援の場を設けて、文芸人口を少しでも増やしていけないかという意見が出た。

3つ目は、新しい賞を作る。現在、香川菊池寛賞の募集をしているが、ハードルを下げて、例えばTwitterのように、100から140文字程度の短い文章をネットで投稿し、文章を作ることに親しんでもらう。そういった賞を一つ作って、文芸人口を増やしていくという取組をしてはどうかという意見が出た。

4つ目は、まち歩きイベントで、菊池寛記念館をチェックポイントの一つとして、実際に足を運んでもらい、観覧につなげるという意見が出た。

今後について、非常に夢のある話も含めて、多くの意見が出たが、個人的には、1つ目と4つ目が、比較的取り組みやすいと思う。2つ目、3つ目については、非常に面白い提案をいただいたので、課内に持ち帰って協議をしたい。

#### 【スポーツ振興課グループ】

今回は、香川ファイブアローズに絞って、議論した。

今シーズンのスローガンは、「つなげる、つながる。」ということで、選手と地域のほか、あらゆるものを繋げていけるような施策を考えていく中で、ペンライトでチームカラー、メンバーカラーを決めて、より選手を応援してもらう企画や飲食をメインに考えて、それで集客につなげる等、どのターゲットにそのような企画を打てば良いかという話し合いを進めてきた。

これまでのホームタウンデーは、高松市民に、無料だと周知する程度だった

が、今シーズンのホームタウンデーに関してはターゲットを絞って、そのターゲットを満足させて、SNS等で発信してもらい、新しい層の獲得につなげていく。中長期的な集客につなげられるような企画を打っていければ良いという所まで議論できた。

これから、香川ファイブアローズの方でも話し合ってもらい、高松市としてどういう支援ができるのか検討していく必要がある。

### 3 閉会

#### **産業振興課長より挨拶**

(事務局から事務連絡をして閉会)